

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (竹原市立忠海中学校)

- ① 教科等 総合的な学習の時間 ② 学年 第1学年
- ③ 単元名 国際理解教育「グローバルな社会をめざして (相互依存・国際協力)」
- ④ 単元の目標 様々な視点で、自国の文化と異文化とを比較しながら、国際理解についての認識を深めることができるようにする。
- ⑤ 単元の計画 (全 20 時間)

学 習 活 動	
1 課題の設定 国際理解教育のねらいについて理解しよう (2h) 国際協力について考えよう (2h) ～ J I C A 国際協力出前講座～ 世界の食文化や音楽から異文化を知ろう (2h) 世界の国々をもっと知ろう (2h)	2 情報の収集・整理・分析 「豊かさ」について考えよう (2h) 日本と世界とのつながりを考えよう (2h) どうする？私たちの地球 (5h)
	3 まとめ・表現 文化祭での発信に向けて (3h)

- ⑥ 本時の目標 地球規模の課題について収集した情報と関連付けて、私たちにできる国際協力について考え、グループの意見をまとめる。
- ⑦ 学習の流れ (14 時間目 / 全 20 時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の目標を確認する。		
○地球規模の課題について個人で収集した様々な情報をもとに、私たちにできる国際協力とは何かについてグループで考え、意見をまとめよう。		
2 これまでにインターネット、JICA 資料、参考書等を利用して個人で集めた様々な情報を持ち寄り、それらの情報をグループで取捨選択し、「私たちにできる国際協力」と関連させ、グループ発表の方針を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報 (写真・図・グラフ等)の中から、どの情報を用いるのかをグループのテーマを基に、グルーピングしながら話し合い、決定するように指示する。 ・選んだ情報を根拠とし、何を相手に訴えたいのかを具体的に話し合うことを確認する。 ・文化祭での発表方法 (口頭発表・ポスター掲示等)を確認し、相手意識を持たせ、効果的な発表の仕方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を関連付けて、多様な意見をグループで出し合い、意見をまとめようとしている。〔よりよく問題を解決する資質や能力〕 (観察・発表)
3 話し合いの途中経過を小型のホワイトボードを使って発表する。 4 グループの方針を見直す。 5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価させる。 ◇情報が根拠になっているか。 ◇説得力のある内容になっているか。 ・出てきた意見を基に、グループの方針を再確認させる。 ・本時の目標を達成できたかどうか、グループごとに確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表を参考に問題改善案を出し合っている。〔主体的、創造的、協同的に取り組む態度〕 (観察)

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 収集した情報を関連付けて考え、筋道立ててまとめ、発表することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 情報を関連付けてまとめる。
(集めた資料から何が読み取れるのか、多様な意見を出し合い、出し合った意見を他者と協同して関連付けてまとめる。)
- 非言語の資料を言語化することにより、理解を深める。
(写真・図・グラフなどの非言語の資料を言語化して整理・分析し、意見を出し合うことにより多様な意見を共有化する。)